

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 少子化対策について (20分)</p> <p>厚生労働省の人口動態統計によると、出生数は2016年に初めて100万人を下回り、2019年の出生数は、86万5239人で過去最少を更新しました。1人の女性が生涯に産む子どもの数である合計特殊出生率は1.36と低迷しています。政府は少子化対策として保育の充実や仕事と育児の両立の支援などを行ってきましたが、なかなか思うような結果には至っていません。菅首相は不妊治療の保険適用の実現を訴えています。不妊治療を、もっと安価で幅広い人たちが受けられるようになれば、少子化対策の大きな前進につながることでしょう。一日も早い実現を期待いたします。</p> <p>一方、日本の婚姻件数は1970年に年間100万組を超えましたが、2018年に60万組を割りました。出産の前段階の婚姻数の激減も少子化の一因であるのではないのでしょうか。若い男女が結婚しやすい環境を整備することも少子化対策につながるものと思います。</p> <p>希望通り子どもを持たない事情は様々なものがあると思います。全国的にも少子高齢化と人口減少が進む中、本市もその例外ではありません。この状況を改善するために本市の取組について伺います。</p> <p>(1) 本市の出生率について (2) 結婚新生活支援事業の導入について (3) 出産祝い金の導入について (4) 産婦人科誘致の経過と現状について (5) 多胎児出生件数の推移と多胎児家庭への支援の現状について (6) 保育所の休日保育の必要性について (7) 男性職員の育児休業の取得状況と課題について</p>	市長
<p>2 空き家対策について (20分)</p> <p>少子高齢化の進行に世帯構成の変化も加わり、国内の空き家</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>等の数は年々増加しています。</p> <p>総務省が実施している「平成30年住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）では、平成30年の空き家の数が全国で約848万9,000戸、空き家率は13.6%と過去最高になりました。</p> <p>空き家は節税の視点から建物をあえて残したままの状態にしている方も多くいるため、適切な管理がされず、地域住民の皆さんに景観、治安、衛生などの面で様々な問題が生じているケースが見受けられます。今後も高齢化はますます進み、本市の空き家の数も増加の一途をたどることが予想されます。こうしたことから現状と今後の対策についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 本市の空き家数の推移と空き家率は。</p> <p>(2) 空き家に関する相談件数の推移と相談内容について</p> <p>(3) 空き家等の所有者への適正管理のための年間指導数と改善された数について</p> <p>(4) 高齢者単身世帯数の推移について</p> <p>(5) 空き家予備軍(高齢者単身世帯)への市の取組について</p> <p>(6) 空き家バンクの物件登録数及び成約数について</p> <p>(7) 空き家解体補助金制度や改修補助制度の導入について</p>	